



親子ものづくり体験教室

1 連合三重金属部門連絡会

初めてのものづくり教室

さて、日本の金属産業をはじめとするものづくり産業は戦後はほとんどの資源を海外から調達し、その資

源を有効に活用し、卓越した技能・技術を駆使し加工・製造を行い今日まで発展をし、世界のものづくり産業をリード、牽引してきました。

しかし、昨今では、若者の「製造業離れ」が進み工業高校の学校数、生徒数は長期的に減少傾向をたどっています。一方で、地方公共団体・企業・NPOなどによる化学実験室や工作教室が人気を集めており、子供たちの潜在的な興味が失われている訳ではないという事がわかります。

このような環境下、連合三重県金属部門連絡会としても何かできることはないかと幹事会で議論を重ねてまいりました。金属部門連絡会に企画するIMF-JC各産別幹事の皆様から様々



作業説明を行う宮本正一連合三重金属部門連絡会事務局長（中央）



OBの方の指導を受けながら、ものづくりに熱中する子供たち



完成した ASIMO の段ボールクラフト
〈ガンバッチェ・ツクッテネ☆〉



連合三重金属部門連絡会
(電機連合三重地方協議会議長)
代表 吉田 文雄

TOPIX 親子ものづくり体験教室

な案が出されましたが、まずは、小学校低学年を対象に夏休みを利用し「ものづくり教室」を開催し、「ものづくり」を通じて親子で楽しく日を過ごしていただく。そして「ものづくり」だけでなく「思い出」もつくるのが出来ればとの想いで今回の企画がスタートいたしました。

参加募集にあたっては、金属部門関係団体だけでなく幅広く募集をしようということで、連合三重加盟産別で参加協力をお願いしたところ、お爺ちゃん・お孫さんで参加される方もあり、すぐに定員となりました。最終的には、予定通り親子3世代、約100名の参加を募ることができました。

そしていよいよ、2009年8月1日(土)、私たち連合三重金属部門連絡会として初めての、「親子ものづくり体験教室」を開催することとなりました。

当日は朝からあいにくの大雨でしたが、三重県鈴鹿市の平田町にある本田技研労働組合鈴鹿支部の会議室をお借りし、環境にやさしい段ボールクラフトを使用した「親子ものづくり体験教室」を開催しました。会場の近くに



ようやく完成！お父さんと一緒にハイポーズ

は全国的に有名な鈴鹿サーキット、本田技研工業(株)鈴鹿製作所があることから、今回はHondaオリジナルの段ボールクラフトの中からASIMO(アシモ)を形どった作品を、接着剤と輪ゴム、洗濯バサミだけを使用し、作成がスタートしました。

段ボールから各パーツ(頭・手・足・胴体等)を組み立て、最後は接着剤で貼り付けるだけの作業であり、スタンプも当初、少し簡単すぎたのではないかと、少し思っていました。ところがこれが結構難しく、ま

ずは、パーツとなる部分をひとつずつ切り離し、細かく形を作っていく作業から始まり、本体(胴)となる部分の作成、そしていよいよ全体を組み付ける作業という手順です。

当日はあいにくの雨降りのため、湿気が多く接着剤の使用する量の加減が難しく、なかなかうまく合体できない中には子供より、お父さんの方が真剣になり作成に熱中する姿も…。そしていよいよ完成。気がつけば予定時間の90分を20分もオーバー。最後は世の中にたった一つしかないASIMOが完成しました。

子供たちは皆、「これ僕がつくったんだよ」「私のが一番上手」と嬉しそうな自慢顔。本当にこの企画、やって良かったと思う瞬間でした。

今回は、本田技研工業(株)鈴鹿製作所「社会活動推進センター」様と本田労組様のご協力、そして定年退職された、9名のOBボランティアの皆さんに指導をいただきながら、連合三重金属部門連絡会第1回「親子ものづくり体験教室」が無事に終えることができました。本当にありがとうございます。最後まで熱心に親子で作成する姿と、完成後の子供た

ちの笑顔に幸せな気持ちになれた1日でした。今後も今回の総括を踏まえ、2010年度活動の中で、次回開催に向けて検討してまいります。



完成した手作りASIMOを持って、最後に全員で記念撮影

親子ものづくり体験教室

② JC島根県連絡会・連合島根金属部門連絡会

ソーラーカー作りに親子で奮闘

夏休みの楽しい思い出に

JC島根県連絡会と連合島根金属部門連絡会は、夏休み中の7月25日(土)に、出雲市小境町の青少年の家「サン・レイク」の創作室において、初の取り組みとなる「親子ものづくり体験教室」を開催。島根県内の金属産業で働く親子14組41名が参加しました。

小学校低・中学年を対象とし、も



ソーラーカーづくりの説明をする金森講師



JC島根県連絡会/JAM山陰代表 永野春樹

のづくりの楽しさと完成した時の喜びを感じてもらい、ものづくりに興味を持ってもらうとの趣旨で、ソーラーカーづくりを選定しました。

JC島根県連絡会の永野春樹代表(連合島根副会長・JAM副委員長)は、「この場合は、ものづくりを通じた親子ふれあいの時間として楽しんでほしい」とあいさつし、「私は幼少期にもものづくりに触れる機会がなかったため、今も機械音痴でもものづくりが不得意。妻は、小さい時からお父さん

の影響で、ものづくりに親しみ、今もいろんなものを創ったりして楽しんでい

る。この場が、子どもたちに、ものづくりの楽しさを伝える貴重な機会となればうれしい」と開催への思いを伝えました。

親子真剣。「力の加減がミソ」

講師には、金森勝美氏(パナソニックエレクトロニツ

クデバイス労組キャパシタ松江支部)にお願いし、ソーラーカーづくりのコツと注意点を教わりながら、親子が共同してものづくりに取り組みました。

まずは、部



もう少し力を入れて!

品のチェック。子どもたちは、早く作りたい気持ちを抑えながら一つ一つの念入りに確認。いざ製作に入ると、最大のポイントとなる「車輪の幅」の調整(モーター側のギアとのクリアランス調整)に、木槌をもって慎重に幅を調節。強すぎるとプラスチックホイールが破損する恐れがあるし、弱すぎると幅調整がうまくいかないし、それを見守るお父さんも、子どもた



JC島根県連絡会(JAM山陰書記長)事務局長 川野 英樹



ゴールに向かって一直線「行け〜」

ちも、お互い気が気では無い様子。
奮闘2時間、自信作完成。

親子で奮闘すること約2時間。ようやく思い思いのソーラーカーが完成。子どもたちは、ペイントマークで、ボディに絵や色付けを施し、世界に「つかない自分だけのソーラーカーを、創り上げました。

子どもたちの創るソーラーカーは、独創性に富んだデザインと、大人では考え付かない色使いに、終始関心させられます。

また、開催日は曇天で雨がぱらつ

く空模様のため、バックアップ用の電池キットを取り付けるように仕様を変更。室内でもレースが出来るように対応しました。

完成車による「ソーラーカーレース」は、白熱したレースが展開。勝負の決め手は、車輪の方向性のようで、いかに真っ直ぐ10メートルのコースを進むかが勝敗を分けました。

子どもたちは、一生懸命に車輪の方向を調整し、レースに挑みましたが、思い通りの結果とはいかず悔し涙を流す子も。

参加者からは、「久しぶりに親子で

次回の成功に向けて

楽しい時間を共有できた」「や「是非、また企画して欲しい」「来年も必ず参加したい」などの感想が聞かれました。

J・C 島根県連絡会と連合島根金属部門連絡会が共催した初めての「親子ものづくり体験教室」の開催は、中国・九州ブロックにおいても、先陣を切ったの開催と聞いていました。

しかし、開催県では事前

の準備段階から、初めて取り組みに対する気負いも一切なく、幹事会におけるアットホームな雰囲気での確認や調整作業に始まり、実務的な面では電機連合とJAMの事務局連携によつて、とてもスムーズに開催まで準備が整えることが出来ました。これも関係者各位のご尽力によるものと深く感謝いたします。

また、参加した親子が、ソー

ラーカーを持って喜んでいる姿は、開催者冥利に尽きるものであり、このものづくり教室を通じて「ものづくりへの興味」や「親子ふれあいの時間」が増してもらえれば、とてもありがたいと思えます。

最後に、あえて反省すれば、もう少し大きな会場が準備出来ていれば、もっと多くの親子が参加できる企画となつただろうと思つていきます。来年に向けて、会場の選定や準備を早めに進め、より多くの親子が参加出来る「ものづくり体験教室」へ充実させていきたいと思えます。

また、継続的な取り組みとすることによつて、「ものづくりの楽しさと喜び」に共感する子ども

たちを増やししながら、ものづくり産業の発展に少しでも寄与出来ればと思



自慢のソーラーカーを持って参加者全員による記念撮影

親子ものづくり体験教室

③ J C新潟・金属部門

メロディー時計をつくらう



2009年8月8日(土)、IMF

FJC新潟県連絡会として連合新潟金属部門連絡会との共催で、5回目となる2009年度「親子ものづくり体験教室」を新潟県上越市で開催しました。

今年度は「メロディー時計を作る」をテーマに、上越市近隣のJC組合員家族が多数参加しました。真田代表幹事の挨拶に続き、講師をお願いした井上雅史さん(パナソニック半導体労組新井支部)の指導で早速「メロディー時計」作りが始まりました。

今回は、昨年よりも、部品点数が多いこと、半田付けも多く、同伴した父兄も真剣そのものでしたが、3時間後には会場のあちこちで、完成した時計からメロディーが流れ、苦労して一緒にものづくりに汗流した親子の笑顔が満ちていました。

参加者は、親子38組80名が参加し

感想文1

親子ものづくり体験教室に参加して

自動車総連 日信工業労組直江津支部 尾崎 千佳

昨年に引き続き今年も参加することになりました。

最初お父さんにこの話を聞いた時、昨年のラジオ作りに参加して失敗した事を思い出し断ったのですが、お父さんから「今年はラジオでなくメロディー時計だよ」と聞いてしぶしぶ引き受けました。当日会場に行ってみるとミッキーマウスの形をしたかわいらしい見本の時計が置いてあり、これなら作ってみたい、うまくいくかはわからないけれどお父さんと一緒に頑張ってみることにしました。作り方の説明を聞くとやはり昨年と同様に半田付けがありこれは難しいぞと思いました。半田付の難しい部分はお父さんに、部品を揃えるのと簡単な作業は私と役割分担を決め一つ一つ慎重に作業を進めていきついに完成。とても感動しました。今は、私のベッドの横でかわいいメロディーを奏で、目覚まし時計として活躍しています。ありがとうございました。



半田付けにいざ挑戦!



同伴した父兄も真剣そのもの



今回は部品点数多いので大変だ



IMF-JC 新潟連絡会
事務局長 横山 孝栄



JC新潟連絡会を代表して挨拶する真田代表幹事

ました。今回は、メロディー時計を作ることをテーマとしたことから18名の女子が参加しました。
参加者の中から、女子2人からの感想文が寄せられているので紹介します。



メロディー時計
完成したよ!

感想文2

親子ものづくり体験教室に参加して

電機連合 新光電気労組 小島 歩美

今日、お父さんとお母さんといっしょに、親子ものづくり体験教室に参加しました。

参加者は、親子全員で40名以上の人たちが参加していました。

作ったものは、メロディー時計といって目覚まし時計みたいな形をしていてスイッチをONにすると音楽が流れ始めます。時計をつくったのは初めてでコンデンサ、トランジスタ、抵抗とたくさんの小さな部品をプリント基板に部品をリードをさしこみ、そして折り曲げてはんだ付けをします。細かな作業をするのはそんなに好きではないけれど、やっていたらなんだか楽しくなってきました。特に私が一番楽しかったことは、はんだ付けです。はんだこては、先端がかなり熱いのでやけどをしないように注意し、

取りあつかいました。くさいにおいがし、先生からにおいをかがないように言われました。はんだ付けは、初めてだったので楽しくできました。こうして期待して作っていたのですが、時計の針をつけ、電池を入れて、電源をONにしても音楽が鳴りませんでした。先生から見てもらったら「かなりじゅうしょうだね」と言われました。

少し残念だったけれども、したこともないことができて良かったです。家に帰ってお父さんによく見てもらったら、配線が切れていることがわかり、修理してもらったら、音楽が鳴りました。時計が使えるようになり本当に良かったです。